

国境の川をつなぐ証 重力式コンクリートダム

お ぜ が わ 小瀬川ダム

広島県廿日市市・
山口県岩国市



小瀬川は中国山地の鬼ヶ城山や羅漢山に源を発し、中流部から広島・山口両県の県境を南下して瀬戸内海に注いでいます。かつて水量が豊富な小瀬川の清流に恵まれた大竹では、和紙の原料となる楮・三桮を産する地域をひかえ、中世末期から紙漉きが始まり、「小方紙」の名で半紙、塵紙、障子紙、傘紙を大坂へ出荷していました。最盛期の^{おがた}大正8年には千軒の漉き家があったそうです。しかし、小瀬川流域の山林は長い間の乱伐で荒廃していたため、昭和20年(1945)の枕崎台風、同25年のキジア台風、同26年のルース台風によって甚大な被害を受けました。

かつて和紙産業で知られるほど、豊富な水に恵まれていた小瀬川でしたが、「大竹・岩国石油化学コンビナート」が発展し、工業用水の需要が高まるにつれて、小瀬川の自然流量だけではまかなえなくなってきました。こうしたことから、小瀬川上流に洪水調節を行うとともに必要な工業用水を確保する治水、利水兼用の多目的ダムが計画されました。昭和28年(1953)から広島・山口両県で調査を開始しましたが、5年後、両県は建設省中国地方建設局(現・国土交通省中国地方整備局)に施工を委託し、小瀬川ダム工事事務所が設置されました。

ダムの建設地点は、昭和15年に調査した小瀬川第3発電所の位置とし、昭和37年(1962)3月に起工、同39年6月に完成しました。小瀬川ダムは県境を流れる川に建設されたため、複数の都府県が共同で管理する全国唯一のダムです。完成から25年後の平成元年には、山口県企業局によって放流水を利用した小規模な水力発電所が新規開発され、治水・利水に発電の機能が加わりました。

しかし、中国地方を襲った昭和47年7月豪雨を考慮すると、治水の安全度を高める必要性が生じ、平成3年に小瀬川総合開発の要として小瀬川ダム下流に中国地方最大の弥栄ダムが建設されました。平成17年の台風14号はキジア・ルース台風匹敵する規模の雨量でしたが、小瀬川・弥栄両ダムの活躍で本川流域での浸水被害はほとんどみられませんでした。

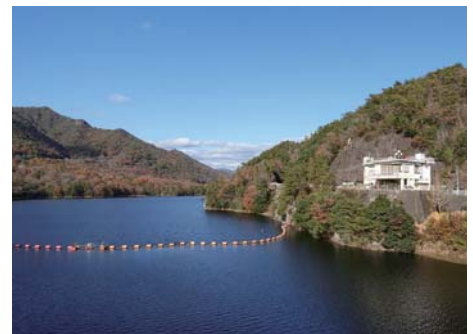


小瀬川ダム
堤高 49.0 m、堤頂長 158.0 m、総貯水容量 11,400,000 m³
の重力式コンクリートダム

位置図



小瀬川発電所



小瀬川ダム湖

昭和62年ダム周辺の市町村に公募したところ、美和中学生3名による「真珠湖」が選ばれた。ちなみに小瀬川にはかつてカワシンジュガイが生息しており、小瀬川溪流に復活することを願っての命名であった。



弥栄ダム
堤高 120 m、堤頂長 540 m、総貯水容量 112,000,000 m³
の重力式コンクリートダム